

## あとがきにかえて——新しい私の画廊をめぐる昨今の事情など

今回で当画廊恒例の現代人物肖像画展は第6回目を迎える。例によってこの一年間に私の目の前に現われ、通り過ぎていこうとするもののなかから、私の好みで選んだ作品を展示している。昨年7月のアメリカ旅行(ロスアンジェルス、ニューヨーク、ボストン)、ついで9月のヨーロッパ旅行(パリ、バルセロナ、マドリッド、ケルン、ボン、ベルリン)で手に入れた作品もその一部を占めている。

展示されている作家は24名、作品は36点で、作家名を生年順にならべると、H・マチス、M・トビー、M・エルンスト、J・ミロ、P・デルボー、J・フォートリエ、H・ムーア、A・ジャコメッティ、山口長男、トワイヤン、V・ヴァザレリ、F・ベーコン、瑛九、J・ポロック、阿部展也、麻生三郎、小山田二郎、三尾公三、H・ヤンセン、山田正亮、A・ウォーホル、鬚嘔、J・ダイン、そして最年少はベルリンのM・ノイマンである。作品のなかにはその作家のティピカルなもの、大変珍しいもの、また版画から、ドローイング、油彩まで、大小とりまぜ今回は賑やかな展示となった。この現代人物肖像展を心待ちにしている方が何人かおられるのを私は知っている。開催する画廊側にとってはやり甲斐のあることで大変ありがたく思っている。

さて、この機会に当画廊の近況について述べておきたい。当画廊が京橋から銀座のこの画廊に移転したのは一昨年の10月であるから、この3月で1年半を経過したことになる。この間、移転記念展として山田正亮展(82/11月)を皮切りに、M・エルンスト、ケルンのダダ展(12月)、クレモニーニ版画展(83/1月)、第5回現代人物肖像画展(2月)、野崎一良彫刻展(3月)、ヤン・フォス展(4月)、J・アルバース版画展(6月)、第3回オマージュ瀧口修造「加納光於」展(7月)、ヤン・フォス京都展—マロニエ画廊と共催—(8月)、山田正亮新作展(10月)—イノウエギャラリーと共催—、水井康雄彫刻展(11月)、アンディ・ウォーホル版画展(12月)、今年に入ってヴィクトル・ヴァザレリと音楽展(84/1月)、佐藤忠雄コレクション展「画廊にて—現代美術収集35年の軌跡—」出版記念(2月)とほぼ毎月1回のペースで展覧会を開催してきている。移転した新しい画廊を知っていただくという気持もあり意識的に展覧会を多くしているが、今年も精力的に進めて行こうと思っている。

昨年の展覧会のことなどについて若干記しておきたい。第一に朝日新聞の「83回顧：美術」欄(12月7日夕刊)で5人の美術批評家とその年の展覧会のベスト5を選ぶ恒例の行事があるが、そのなかで東野芳明、岡田隆彦の両氏が山田正亮展を、酒井忠康氏が加納光於展を選ばれたことをまず挙げておきたい。これは当画廊にとっても大夜うれし

いことであった。また加納光於展は署名された来廊者のみで千名を数え(従って来廊者は2千名を超えたと想像される)、瀧口先生と加納さんの本、画集、カタログ、ポスター、カード等の売上が展覧会期間中に1,200千円を数えるほどの盛況でこれにはいささか驚いたことは付け加えておきたい。

第2にヤン・フォス展についてであるが、この展覧会を私の敬愛する寺田透さんが大変高く評価されたことを記しておきたい。寺田さんはまだ4月だけれどもこのフォス展は今年の最高の収穫のひとつである、と話され、昨年9月に出版された先生の“語らぬ筈の自分のこと、ほか”(筑摩書房刊)の表紙と扉にフォスの絵を使われたのである。なお、フォスの絵は木村治美さんの「心の時代に—私の精神分析—」文芸春秋社刊(83/7)の表紙にも使用されたことを付け加えておきたい。さらに昨年11月にパリのアドリアン・マーズ画廊でフォスの新作展が開催されたが、ポンピドーセンターがフォスの大作を一点購入したという。よろこばしいニュースである。

最後にこれからの当画廊の展覧会のスケジュールを紹介しておきたい。

●4月2日—28日 クリストCHRISTO展

—The Pont Neuf Wrapped: Project for PARIS—

ドローイング、コラージュ、写真等20点余を展示。カタログテキストは中原佑介氏、インタビュー記事は柳正彦氏(すでに昨年11月19日、クリストのアトリエでインタビュー完了)。クリスト夫妻は10日間の日程で来日、原美術館(3/31)、草月美術館(4/5)で講演の予定である。この展覧会は昨年7月、ニューヨークでクリスト夫妻と会い、合意をみたもので、一昨年の4月以来当画廊での2回目の展覧会である。今回はポン・ヌフのプロジェクトのみに限定して行われるが、世界で最初のラップド・ポンヌフ展である。ステキなポスターを作りたいと思っている。

●5月21日—6月9日 東京・パリ現代美術交流展

朝日新聞社の日仏文化交流の一環としてジャン・ポール・ユフチェ(シュタトラ画廊)を当画廊で、山田正亮をシュタトラ画廊でお互いに交換展を行う予定。

●7月6日—28日 第4回オマージュ瀧口修造:「山口勝弘」展

●秋の展覧会はマックス・エルンスト:コラージュ展、山田正亮展(旧作)等を予定している。

それにしても3米80の高さをもつ画廊の空間は大作を置いた場合、甚だ納りがよい。これからも面白い展覧会を意欲的に開催していきたいと思っている。皆様のご支援、ご鞭達をお願い申し上げます。

1984年3月1日

佐谷画廊  
佐谷和彦